

## 【分科会の成果と課題】

### [成果]

- 学校教育において「連携」は、非常に重要なキーワードである。小中連携、幼（保）小中連携、保護者や地域との連携、関係機関との連携など、連携にかかわる提言が複数の分科会で行われた。そして、教頭がその様々な連携の中心となることが提言や協議で確認された。
- 地域の特徴を生かした取組や実践が、多数紹介された。その中で、職員のモチベーション・当事者意識を高めること、取組の維持と継続が可能な体制をつくること等における教頭の役割について協議することができた。
- 小中の9年間（または幼・保を入れた12年間）のスパンで子どもたちを育てていく視点から、中学校区で連携することや共通の課題（子ども像）をもつ必要性、組織づくりの方法や課題、取組の評価などについて協議を深めることができた。
- それぞれの分科会の指導者から貴重な御指導をいただくことができた。

### [課題]

- 極小規模校、小1校・中1校などの比較的小さな連携教育の実践の場合、あまり参考にできない学校もある。グループ編制に配慮が必要である。
- 様々な連携が必要である。保護者・地域との連携、保小中連携は当然であるが、保護者や地域同士の連携も強めていく必要がある。
- 教頭の職務は所属職員との連携無しには、成り立たない。そのためには、職員からの信頼は不可欠である。常に教頭の役割を意識し、様々な場面での教頭の役割を的確に捉え、確実に実践（指導・支援）していくことが必要である。



## 【中越ブロック大会の成果と課題】

### [成果]

- 一人職である教頭は、日々孤独な中で業務を行っている。グループ討議では、自校の事例に基づいた充実した話し合い・情報交換が行われ、研修の目的を十分に達成できた。特に新任の教頭から、悩みや実態の解決につながる協議になったという感想が寄せられた。
- 提言者・司会者と指導者の事前打ち合わせ会では、指導者から適切な指導をいただくことができ、充実した提言内容の検討が行われた。
- 協議する内容が明確でとてもいい分科会ができたという感想が多かった。
- 当日を迎えるまでの準備（記録依頼などの分科会運営に関することや要項配付等）がとても丁寧に行われて良かったという意見があった。
- アンケート結果から、開・閉会式、提言発表及びグループ討議の分科会等、全体的にとてもよく準備され、全体運営がとてもスムーズに行われたとの評価を数多くいただいた。また、湯沢のNASPAニューオータニが、施設面でも広い駐車場を確保できるという面でもとてもいい会場であったという感想や紅葉の湯沢の地が良かったという感想があった。

### [課題]

- 提言原稿の各单位教頭会での事前検討を十分に行う必要がある。単位教頭会としての発表であることを再確認したい。
- 欠席をしないように事前に校務を調整する等が必要である。また、欠席の場合は欠席連絡の仕方を確実にする。
- 発表者の負担過重にならないようにしたい。多忙化解消アクションプランに逆行しないように。
- 当日配布した封筒は不要である。
- 準備・運営をもっと簡素化したい。
- 翌日が音楽会や学習発表会という学校が複数校あった。開催期日の検討も必要である。

